

東京

「つなごろうの会(仮) 東京教区青年ネットワーク立ち上げ会」

現在東京教区には、中高生の活動以外、「青年」を母体とした活動は皆無と云っていいほど見当たらないのが現状です。しかし二年前の全国青年大会や、辺野古での活動など、「外」に出てゆく若者がいないわけではありません。というわけで、教区中に潜伏する若者世代同士を「つなげる」ようなネットワークを作ろう！という会が先日開かれることになりました。

それぞれの関心について話し合ったり、パーベキューをしたりして有意義な時を持ちました。最後は「ネットワーク」をつなげるツールとしてメールリングリストを作ることが決定し、顔の見える関係を目指して一人ずつ挨拶メールを流したり、会の中で作った今後教区でやっていきたい希望を託した「願いの筐」の内容なども流し、実現に向けて議論していこう、など「次」に向けてのアイデアもちらほら出ています。

九州

九州教区「平和を考えよう」プログラムより

毎年二月もしくは三月に開催してきた私たち平プロの「長崎に立つ」も来年で早八回を数えるが、やはり原爆の日には被爆地長崎に立ち、原点に立ち返ることの必要を強く感じたり、私達は新たに夏季のイベントを企画し、この夏第一回目を開催した。題して「長崎に立つ2006・夏」。スタップやリピーターの学びを深める内容である冬の

今回は会の準備にも十代と四十代までが関わったので、企画の全体を通して、同じ世代だからできること、違う世代と一緒にできることなども確認できました。教会の現状を考えたとき、「青年」という定義自体を柔軟に捉え、何もかもワカモノに託すのではなく、一緒にやること

意義を常に感じていきます。今後このネットワークが広がって、様々な活動に発展し、その過程の中で多様な世代、多様な立場の人たちが関わりあいながら次世代へとつなげていければと思っています。今回はその大いなる一歩(のはず)なのでした。中村真希(東京教区) 府中聖マルコ教会

「長崎に立つ」とは違、夏のプログラムはあくまで基本的で、初めての人にも参加しやすい内容で企画されたが、参加者不足が懸念されつつも結果的には二十名の参加者を得、中でも高校生が五名も参加してくれたこと、そして東京・大阪・沖縄から初参加者が得られたことは大変嬉しかった。

初日は原爆資料館見学と被爆者証言。二日目は長崎聖三一教会の原爆記念礼拝に参列し、黙祷の中で十一時〇二分を迎えた。午後は「平プロ」スタップがガイドを務めるのフィールドワークで、長崎の街を約四時間かけて巡った。三日目は参加者それぞれの思いを出し合い、共有するひとときを持った。

初日の夜の証言は第四回「長崎に立つ」以来お世話になり全国青年大会でもお話いただいた城臺さん。今回も「原爆が人に対してどんなに辛い日々を残したのか」ということを感じてもらいたい。もう一回日本が戦争したらどんなことになるのか？戦争を変えていいのか？憲法民投票法、共謀罪…、最後に憲法が変えられ

ていく。じわじわと私たちの周りが変わりつつある。私の話をきっかけに、これからどんなことに立ち向かっていけばいいのかを勉強していつてもらいたい。」と目頭を熱くしながら強く訴えられた。何度聞いても同じ「熱さ」そして強い「願い」がそこにある。そして聞くものは皆、今が戦後ではなくもはや戦前となっていることを感じ、「このままじゃいけない」「何かしなきゃいけない」という思いに駆られるのである。

さて、私達は次回第八回の「長崎に立つ」を来年二月二三日(金)〜二五日(日)に開催する事を決定し、現在準備を進めている。テーマは「語り継ぐ為にIII」。証言とフィールドワークを基本としたプログラムにする予定であるが、詳しくは年明けには案内が出来上がる予定なので、そちらを御覧下さい。是非多くの方に参加していただければと思います。

早川 成(九州教区平プロ実行委員長)

情報流したいと思えます(予定では次回二月十二日に開催予定です)。

ひとまず窓口は大阪教区 当舎あずさ、神戸教区 さこ田、となっておりまして、ご質問があればこの兩名までご連絡下さい。さこ田直文(神戸聖ヨハネ教会)

二〇〇七年十月三日(九日)、東アジア聖公会協議会(CCEA)の四年に一度の総会がシンガポール(予定)で開催。日本聖公会からも青年一名を含む四名が選出されて出席する。